

地方銀行の投資信託窓販からみた投資家行動

丸 淳子（武蔵大学）

松澤孝紀（武蔵大学・院生）・松本勇樹（武蔵大学・院生）

1．はじめに：わが国の投資家行動の特徴

わが国の投資家は金融資産保有が先進諸国に比して高いにもかかわらず、リスク金融資産への投資が少ない。保守的な日本の金融システム、無いに等しい投資教育など原因は多様であるが、環境さえ整えば、リスク資産の選好も高まるかもしれない。

投信窓販の解禁というリスク資産投資の環境変化は投資家行動を買えるであろうか。投信販売を独占してきた証券会社の支店の少ない地方銀行の投信販売がどのように展開されているかを、地銀（地銀・第二地銀）112行へのアンケート調査を通して分析する。

2．銀行の窓販状況

1998年末に投資信託の窓販が銀行等金融機関に解禁され、5年以上が経過した。銀行の投信窓販は順調に拡大している。銀行で販売される投信ファンドの特徴は、発売当初、リスクの低いMMFを含む公社債投信が中心であったが、MMFの元本割れや長引く低金利状況下、次第に高リスクのファンドのウェイトが増加しており、現在では、90%以上が株式ファンドである。

3．アンケート調査の結果

（1）影響を与えている販売チャネル

現在の投信販売チャネルとして、窓口と渉外行職員のどちらが非常に影響をあたえているかという点、渉外行職員が非常に影響を与えているが73%であるのに対して、窓口が非常に影響を与えているは21%となっている。

（2）預金者の投信選択状況

預金者が投信ファンドを購入するとき、自己選択しているのは1割弱であるのに対して、8割以上が販売担当者の提案によってファンドを選択していることがわかる。

（3）販売ファンドの特徴

地銀で多く販売されている資産残高の最も高いファンドは海外債（グローバル・ソブリンもの）で75%であり、ついで、国内株（インデックス）、派生商品型（リスク軽減型）となっている。グローバル・ソブリンは株式投信に区分されているが、中身は海外の優良国債などであり、為替変動リスクがある。人気があるのは分配型である。

（4）地銀の投信選択理由

地銀が投信運用会社の運用するファンドから自行で取扱う投信ファンドを選択する際にもっとも考慮している点は投信ファンドの売り易さ、わかり易さ、説明のし易さである。

4．アンケート調査からのインプリケーション

地銀預金者はリスク資産である投信を購入し始めた。しかし、銀行主導の投資である。また、銀行側にもリスク資産販売を強力に進めて行くには人的資源の不足が課題である。